

〔資料〕

乳がん看護認定看護師の活動拡大と支援ニーズ －資格取得3ヶ月後と4年後の活動状況の分析－

阿部 恭子¹⁾ 黒田久美子²⁾ 赤沼 智子²⁾

The Expanded Activities and Support Needs of Certified Nurses Performing Breast Cancer Nursing:
Analysis of Activities at 3 Months and 4 Years after Certification.

Kyoko ABE¹⁾, Kumiko KURODA²⁾, Tomoko AKANUMA²⁾

要 旨

本研究の目的は、乳がん看護認定看護師の資格取得3ヶ月後と4年後の活動の拡大、および活動の拡大に必要な支援を明らかにし、今後のさらなる活動推進の支援のあり方を検討することである。2006年に乳がん看護分野の認定看護師（以下、CN）資格を取得した20名を対象に、質問紙調査を2回行った。3か月後の調査には18人、4年後の調査には13人から回答を得た。CNとしての活動日の取得状況では、3ヶ月後では、活動日があるのは9人（50%）に対し、4年後では、10人（76.9%）で、活動日を有するCNの割合が増加していた。さらに、看護相談の実施状況では、相談室以外の部署に所属して看護相談を実施しているのは、3ヶ月後では、2人（11.4%）であったのに対し、4年後では、6人（46.2%）と増加していた。4年後では、CN自身が、活動が拡大したと評価していたのは、10人（76.9%）で、活動拡大の状況は、【乳がん患者・家族へのCNとしての専門的な介入の増加】、【乳がん患者・家族、リンパ浮腫のある患者への看護相談の拡充】、【市民や乳がん患者、看護師への教育的な活動の実施】があった。さらに、「期待される役割」の自己評価の平均値の比較では、9項目のうち、「5. 乳がんの治療に関する最新の知識を持ち、患者の意思決定上の情報提供ができる」において、有意差が見られた（ $p < 0.1$ ）。活動拡大に向けて受けた支援では、【CN活動への理解と協力】、【CN活動のための体制と環境の整備】、【CN活動の認知の促進】、【CNの自己研鑽を促進する処遇の配慮】、【CNの活動を促進する助言】があった。今後、乳がん看護分野のCNの活動を推進するためには、乳がん看護に関わる学会・研究会と教育機関が協力して看護部組織や病院組織に対して、更なる乳がん看護分野のCNの役割の認識・評価を促すとともに、CNへの教育セミナー等を通じて教育・相談支援を推進する必要がある。

Key Words : 乳がん看護, 乳がん看護認定看護師, 看護管理者, 組織的支援

I. はじめに

- 1) 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター 認定看護師教育課程
- 2) 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター ケア開発研究部
- 1) Training Course for Certified Nurse in Breast Cancer Nursing,
The center for Education and Research in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing, Chiba University
- 2) Care Development in Nursing, The center for Education and Research in Nursing Practice, Graduate School of Nursing, Chiba University

乳がん患者や乳がん医療を取り巻く社会から、多様な場面で看護を提供でき、他専門職と連携を取れる高度専門職業人としての乳がん看護のエキスパートが求められている。そこで、2005年に千葉大学看護学部（当時）が乳がん看護認定看護師の教育機関を開設することとなり、2006年にわが国で最初の乳がん看護認定看護師20名が誕生した。この乳がん看護分野で最初の認定看護師（以下、CN）は、乳がん看護に特化した活動を開拓し、ロールモデルとなる立場にある。このCNの活動の経過を示すことは、今後、認定資格を取得するCNが活動を広げるための見通しを立てることを可能にする。一方、CNの活動拡大のためには、組織的な支援が欠かせない¹⁾。そこで本研究では、

CNの活動拡大を、CN資格取得の3ヶ月後と4年後の活動状況、「期待される役割」に関する自己評価、および、CNが認識する活動の拡大から明らかにし、さらに、3ヶ月後でのCNが必要とした支援と4年後での活動の拡大に向けて得られた支援から、今後のさらなる活動を推進していくための支援のあり方を検討する。

II. 研究方法

2006年にCN資格を取得した20名を対象に、研究者らが作成した質問紙を用いて質問紙調査を行った。調査は、資格取得3ヶ月後（以下3ヶ月後）の2006年11月と、資格取得4年後（以下4年後）の2010年8月に行った。

調査項目は、①属性、②他部署でのケアや看護師への相談・指導などに携わる活動日の取得状況、③看護相談の実施状況、④「期待される役割」に関する自己評価、⑤4年後での活動状況に対する自己評価、⑥4年後でのCNが認識する活動拡大の状況、⑦3ヶ月後でのCNが必要とした支援、⑧4年後でのCNが認識する活動拡大に向けて得られた支援である。

質問紙の作成において、④「期待される役割」に関する自己評価は、日本看護協会認定部による乳がん看護分野の基準カリキュラム（2003年版）を参考に「期待される役割」を9項目設定し、「全くそう思わない」の1点から「とてもそう思

う」の5点の5段階で回答を求めた。分析方法は、調査項目の①、②、③、⑤では記述統計を、④「期待される役割」に関する自己評価については、平均値の比較のためにマンホイットニーのU検定を行った。⑥、⑦、⑧の自由記述の項目は、逐語録を読み、調査項目の内容を表現している部分を抽出してコードとした。コードの意味内容の類似性によって分類、統合し、意味をあらわす表題をつけ、サブカテゴリー、カテゴリー、コアカテゴリーへと抽象度を上げて整理した。

本研究は、千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認を得て行った。対象者と研究者は、元研修生と元教員の関係にあり、対象者が不利益を感じず、率直で信頼性の高いデータを得るために、フロッピーディスクの形で調査票を配布し、そこに書き込むことで、個人が判別されることを避けるよう配慮した。調査は無記名で行い、返信用封筒による研究者への返送をもって承諾を得られることとした。

III. 結果

1. 対象者の概要

3ヶ月後の調査では18人（回収率90%）、4年後の調査では13人（回収率65%）から回答を得た。対象者の概要を表1に示す。所属部署は、3ヶ月後では、外来が3人（16.7%）、病棟が14人（77.7%）、相談室が1人（5.6%）で、4年後では、

表1 対象者の概要

項目	3ヶ月後 (N=18)		4年後 (N=13)	
	人数	(%)	人数	(%)
性別	女	18 (100.0)	13	(100.0)
年齢	20代	4 (22.2)	0	(0.0)
	30代	9 (50.0)	6	(46.2)
	40代	5 (27.8)	7	(53.8)
所属施設	総合病院	10 (55.5)	5	(38.5)
	がん専門病院	5 (27.8)	2	(15.4)
	大学病院	2 (11.1)	2	(15.4)
	その他	1 (5.6)	4	(30.7)
所属部署	外来	3 (16.7)	7	(53.8)
	病棟	14 (77.7)	3	(23.1)
	相談室	1 (5.6)	1	(7.7)
	その他	0 (0.0)	2	(15.4)
職位	スタッフナース	10 (55.5)	2	(15.4)
	副師長相当	6 (33.4)	8	(61.5)
	師長相当	2 (11.1)	1	(7.7)
	その他	0 (0.0)	2	(15.4)

外来が7人(53.8%),病棟が3人(23.1%),相談室が1人(7.7%),その他が2人(15.4%)だった。職位は、3ヶ月後では、スタッフナースが10人(55.5%),副師長相当が6人(33.4%)で、4年後では、スタッフナースが2人(15.4%),副師長相当が8人(61.5%)で、資格取得3ヶ月後の調査以降に職位が変わっていたのは6人いた。臨床経験年数は、3ヶ月後では平均13.4年、4年後では平均15.2年であった。乳がん看護経験年数は、3ヶ月後では平均8.5年、4年後では10.6年であった。

2. 活動日の取得状況

3ヶ月後では、CNとしての活動日があるのは9人(50.0%)で、定期的に活動しているのが6人(33.3%),不定期に活動しているのが3人(16.7%)だった。4年後では、CNとしての活動日があるのは10人(76.9%)で、定期的に活動しているのが3人(23.1%),不定期に活動しているのが7人(53.8%)だった(表2)。

3. 看護相談の実施状況

3ヶ月後では、相談室以外の部署に所属して看護相談を実施しているのは2人(11.4%)で、週

表2 活動日の取得状況

	3ヶ月後 (N=18)		4年後 (N=13)	
	人	数 (%)	人	数 (%)
活動日がある	9	(50.0)	10	(76.9)
(頻度)				
定期	6	(33.3)	3	(23.1)
不定期	3	(16.7)	7	(53.8)

表3 看護相談の実施状況

	3ヶ月後 (N=18)		4年後 (N=13)	
	人	数 (%)	人	数 (%)
相談室に所属し 看護相談を実施している	1	(5.6)	1	(7.7)
相談室以外の部署に所属し 看護相談を実施している	2	(11.4)	6	(46.2)
(頻度)				
1日/週	1	(5.6)	3	(23.1)
0.5日/週	1	(5.6)	2	(15.4)
不定期	0	(0.0)	1	(7.7)

表4 「期待される役割」に関する自己評価の平均値の比較

項 目	3ヶ月後	4年後	U値
1. 乳がんの集学的治療および治療に伴う副作用に対する専門的ケアを計画・実施できる	3.61	3.75	97
2. 必要なセルフケア確立に向けた指導ができる	3.56	3.75	89
3. リンパ浮腫の予防、症状緩和に向けての専門的技術が提供できる	3.44	3.92	79
4. 乳がん治療に伴うボディイメージの変容、心理・社会的な問題に対する相談・支援ができる	3.78	4.00	91
5. 乳がんの治療に関する最新の知識を持ち、患者の意思決定上の情報提供ができる	3.56	4.25	62.5*
6. 再発の早期発見のために乳がん自己検診法を理解し指導できる	3.44	4.00	74
7. 乳がん患者・家族の看護について、他の看護職者に対する相談・指導ができる	3.44	3.58	96.5
8. 乳がんの治療・ケアに携わる専門家(医師、専門看護師、認定看護師など)と連携し、効果的な支援ができる	3.78	4.08	82
9. 乳がん患者・家族の人権を擁護するために適切な倫理的判断を行うことができる	3.94	4.00	103.5

※: p<0.1 有意差あり

表5 CNが認識する活動拡大の状況（4年後）

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
乳がん患者・家族へのCNとしての専門的な介入の増加	CN活動として乳がん患者への専門的な介入の増加	CN活動として所属部署以外の患者への介入が可能になった	平日の午前中に活動時間を確保し、所属部署以外の乳がん患者への介入が可能になった
		外来でCN活動としての意思決定支援などのケアが増えた	病棟所属だが外来でのCN活動時間を確保できているので意思決定支援などのケアに関わることが可能になった
	乳がん患者・家族への専門的な介入の増加	患者の専門的なケアに関わる時間が増えた	当直や診察介助の回数が減り、患者の専門的なケアに関わる時間が増えた
		患者・家族、医師へCNの役割が浸透し専門的な介入が増えた	乳がん患者・家族や医師に乳腺の窓口としての役割が浸透し、専門的な介入が増えた
	外来と病棟でのCNによる継続看護の開始	外来と病棟でのCNによる継続看護を開始した	乳がん看護CN間の患者カンファレンスにより外来と病棟での継続看護に取り組んだ
	乳がん患者・家族、リンパ浮腫のある患者への看護相談の拡充	乳がん患者・家族への乳がん看護相談の拡充	乳がん患者・家族への看護相談を開設・増設した
乳腺看護外来を開始し活動時間を確保できるようになった			
週に1日半、乳がん看護相談外来を開設した			
乳がん看護外来を開始し、患者に関わる時間と場所が確保出来た			
看護相談の日程を4回/月に増やした			
リンパ浮腫のある患者へのリンパ浮腫ケア看護外来の開設		リンパ浮腫のある患者へのリンパ浮腫ケア看護外来を開設した	リンパ浮腫のある患者へのリンパ浮腫ケア看護外来を開始した
市民や乳がん患者、看護師への教育的な活動の実施	患者教育資料の作成	看護師の協力により患者教育資料を作成した	外来看護師と協力して患者向けパンフレットの作成などに取り組んだ
	看護師対象の教育活動の実施	看護師対象の教育プログラムの企画・実施した	外来での看護師向けの勉強会を行い、スタッフが看護相談に応じられるように実践事例を紹介した
			がん看護研修を企画・実施した
市民対象の院外での教育的な活動の実施	市民を対象とする教育的な院外活動を実施した	看護部が企画する乳がん市民公開講座を年に1回開催した 看護部長の支援を受けて市民を対象とする院外活動に取り組んだ	

に1日が1人（5.6%）、週に0.5日が1人（5.6%）だった。4年後では、相談室以外の部署に所属して看護相談を実施しているのは6人（46.2%）で、週に1日が3人（23.1%）、週に0.5日が2人（15.4%）、不定期が1人（7.7%）だった（表3）。

4. 4年後のCNが認識する活動拡大の状況

「期待される役割」に関する自己評価は、9項目すべてで3か月後に比べて、4年後の平均値が増加していた。また、平均値の比較では、9項目の役割のうち、「5. 乳がんの治療に関する最新の知識を持ち、患者の意思決定上の情報提供がで

きる」において、有意差が見られた（ $p < 0.1$ ）（表4）。CNが認識する活動拡大の状況では、（以下、コアカテゴリーを【 】で示す）【乳がん患者・家族へのCNとしての専門的な介入の増加】、【乳がん患者・家族、リンパ浮腫のある患者への看護相談の拡充】、【市民や乳がん患者、看護師への教育的な活動の実施】があった（表5）。4年後での活動状況に対する自己評価において、CN自身が、活動が拡大したと評価していたのは、10人（76.9%）で、活動が拡大したと評価しないが1人（7.7%）、どちらともいえないが1人（7.7%）

表6 CNが必要とした支援（3ヶ月後）

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
CN活動への理解と協力	CN活動への看護部組織の理解と協力	CNが活動しやすいように体制の整備を看護部組織にしてほしい	活動しやすいような環境づくりや体制整備を看護部にしてほしい
			CNが活動しやすいように看護部組織による協力体制を整えてほしい
		CN活動への看護部組織による理解と協力がほしい	CN活動への師長やスタッフの理解と協力を得たい
			活動時間を確保できるようにするための看護部組織の理解や協力がほしい
	CN活動への病院組織の理解と協力	CN活動への病院組織による理解と協力がほしい	看護部に活動を理解してほしい
			病院組織全体のCN活動への協力がほしい
CN活動のための体制と環境の整備	活動時間の確保への看護部組織の支援	CN活動のための時間を確保できるように看護部組織に支援してほしい	活動時間を確保できるようにしてほしい
			業務の調整により活動時間を確保できるようにしてほしい
			活動時間を確保できるような看護部組織の支援が欲しい
			勤務時間内にCN活動をできるように調整してほしい
	環境整備への看護部組織の支援	CN活動のための場所を確保できるように看護部組織に支援してほしい	CN活動に専念できる時間を確保してほしい
			活動時間を確保できるように看護職の人員を増やしてほしい
			CN活動を確保できるようにするために看護職の人員を補充してほしい
			CNとして活動するための時間と場所を確保してほしい
	患者にケアを提供できる体制作りへの看護部組織の協力	患者へのケアに使う資材の購入や管理への協力をしてほしい	CNが活動しやすい場所と時間の確保をしてほしい
			CNが活動しやすい部署へ配置してほしい
			活動の場が明確になるようにしてほしい
			患者へのケアの提供に必要な資材を購入してほしい
患者へのケアを提供できる体制作りへの看護部組織の協力	チーム医療に取り組むために組織で協力してほしい	患者用の資材をCNが管理しやすいように協力してほしい	
		チーム医療に取り組むための看護部による協力を得たい	
CN活動の認知の促進	CN活動への認知を促進する病院組織の支援	CNの役割を認識してもらえように病院組織全体で取り組んでほしい	施設内でのCNの役割の認知が深まるように看護部組織から働きかけてほしい
	CN活動への認知を促進する日本看護協会や教育機関による支援	日本看護協会や教育機関によるCN活動への認知が深まるような普及活動を継続してほしい	CNの役割について病院組織全体で認識してほしい
			日本看護協会による組織での認知が深まるような広報・普及活動を継続してほしい
CN活動の評価方法の整備	CN活動への病院組織による評価	病院組織全体が期待するCNの役割や活動を明確にし活動に対する評価をしてほしい	組織（病院）がCNに求めている役割を明確にもらいたい、評価する体制をつくってもらいたい
	CN活動を評価する日本看護協会や教育機関による支援	日本看護協会や教育機関によるCN活動が組織に有益であることを可視化できる評価への支援	CN活動に対する評価をしてほしい
CNの自己研鑽を促進する処遇の配慮	キャリア発展を促す病院組織の経済的支援	自己研鑽のための経済的な支援を病院組織としてしてほしい	自己研鑽のための経済的な支援を病院組織としてしてほしい
			院外での活動もあるので手当等の経済的な支援をしてほしい
			学会や研究会に出張として参加できるようにしてほしい
	病院組織による職位・給与への配慮	CNの役割発揮に対する職位や給与等の待遇の改善をしてほしい	CNの役割発揮に対する昇給等での待遇の改善をしてほしい
			職位や給与等の待遇を改善してほしい
	休養の確保への看護部組織による配慮	休養するための時間の確保を看護部組織にしてほしい	自己研鑽のための活動を週休ではなく出張扱いにして、休養するための時間の確保を看護部にしてほしい
自己研鑽のための活動を週休ではなく出張扱いにして、休養するための時間を確保してほしい			
CN活動を促進する教育・相談支援	CN活動を促進する日本看護協会や教育機関による教育・相談支援	日本看護協会や教育機関によるCNの能力が高まるような支援をしてほしい	日本看護協会や教育機関によるCN相互のスキルを高めるための情報交換の場がほしい
			日本看護協会や教育機関によるCNのマネジメント能力を高めるための教育的支援がほしい
	日本看護協会や教育機関によるCN活動への相談体制を整備してほしい	日本看護協会や教育機関による活動を相談できる体制を作してほしい	

表7 CNが認識する活動拡大に向けて得られた支援（4年後）

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
CN活動への理解と協力	CN活動への看護部組織の理解	CN活動に拡大に向けて看護部組織の理解が得られた	役職が付き、管理者と接する機会が増え、活動への理解が得られた
	CN活動拡大への病院組織の理解と協力	CNの活動報告や要望を出せる体制を病院組織が整備してくれた	認定看護師会として病院組織に対して、活動報告や要望をだせる機会がある
		病院組織によりCN活動拡大のための理解と協力が得られた	CNとして乳がん検診啓発や患者会の活動を広げるのに、多職種を理解を得て支援してもらった
CN活動のための体制と環境の整備	看護外来のための看護部組織による活動時間の確保	看護外来の活動時間の確保に看護部組織が支援してくれた	乳腺看護外来を行う時間を確保できるように看護部が支援してくれた
	CN活動の時間確保への師長・スタッフの協力	CN活動を可能にする時間の確保に師長・スタッフが協力してくれた	外来での活動時間を確保するのに、病棟の師長が協力してくれた
			外来での活動時間を確保するのに病棟スタッフが協力してくれた
			活動日に対する師長・スタッフの理解が得られた
CNの実践への医師や看護師の協力	ケアニードのある乳がん患者への介入が可能になるように医師や看護師が協力してくれた	活動日に患者の面談時間となるよう外来看護師が協力してくれた 介入が必要な患者に医師がCNを紹介してくれる	
CN活動の認知の促進	CNの役割への認知を促進するための看護部組織による場の提供	看護部組織がCNの役割を紹介する場を提供してくれた	活動報告会で自分の役割をアピールする機会を得た 看護師集会で自分の役割をアピールする機会を得ている
	患者のCNへの認識を促す医師や看護師の協力	医師や看護師がCNの存在や役割を患者に紹介してくれた	医師が患者に乳がん看護認定看護師の存在と役割をアピールしてくれた 患者に対してCNやがん看護相談の存在を外来看護師が紹介してくれる
CNの自己研鑽を促進する処遇の配慮	CNのキャリア発展への師長の協力	部署の管理者がCNのキャリア発展のための勤務調整に協力してくれた	CN活動や勉強のための休みを師長が優先的につけてくれる
	CNのキャリア発展を促す病院組織による経済的支援	病院組織による学会参加のための経済的支援が得られた	学会参加費が支給された 活動支援金が支給された
	CNの待遇改善への病院組織による配慮	病院組織による待遇改善への配慮がされた	CNに3000円／月の手当が支給されるようになった
CNの活動を促進する助言	CN活動に拡大に向けてのCNSや他分野のCNの助言	CN活動に拡大に向けてCNSや他分野のCNの助言を受けた	活動計画の立案時に他分野の認定看護師から助言を受けた 他分野の認定看護師に活動上の悩みの相談に応じてもらっている 他分野の認定看護師や専門看護師に活動にあたっての助言を得た 他の認定看護師に活動していく中での助言を得た

だった。

5. 3ヶ月後でのCNが必要とした支援

3ヶ月後でのCNが必要とした支援は、【CN活動への理解と協力】、【CN活動のための体制と環境の整備】、【CN活動の認知の促進】、【CN活動の評価方法の整備】、【CNの自己研鑽を促進する処遇の配慮】、【CN活動を促進する教育・相談支援】があった(表6)。

6. 4年後でのCNが認識する活動拡大に向けて得られた支援

CNが認識する活動拡大に向けて受けた支援は、【CN活動への理解と協力】、【CN活動のための体制と環境の整備】、【CN活動の認知の促進】、【CNの自己研鑽を促進する処遇の配慮】、【CNの活動を促進する助言】があった(表7)。

IV. 考 察

1. CNの活動拡大

乳がんの治療は、集学的治療としての化学療法や内分泌療法、放射線療法が外来を中心に行われるため、乳がん看護CNは外来所属による専門的なケアの提供が期待されている。本調査において所属部署では、3ヶ月後は外来所属が3人(16.7%)であったのに対し、4年後では、外来所属が7人(53.8%)で、外来所属の割合が増加しており、外来でのCNによる専門的なケアの提供が増えていると考えられる。

CNとしての活動日の取得状況では、3ヶ月後では、活動日があるのは9人(50%)に対し、4年後では、10人(76.9%)で、活動日を有するCNの割合が増加していた。さらに、看護相談の実施状況では、相談室以外の部署に所属して看護相談を実施しているのは、3ヶ月後では、2人(11.4%)であったのに対し、4年後では、6人(46.2%)と増加し、頻度も、週に1日で実施しているのが3ヶ月後では、1人(5.6%)であったのに対し、4ヶ月後では、3人(23.1%)に増加していた。活動日や看護相談が増加していることから、4年後での活動が拡大しているといえる。

また、CN自身が、活動が拡大したと評価していたのは、10人(76.9%)で、活動拡大の状況は、【乳がん患者・家族へのCNとしての専門的な介入の増加】、【乳がん患者・家族、リンパ浮腫のある患者への看護相談の拡充】、【市民や乳がん患者、看護師への教育的な活動の実施】であった。これらの活動拡大は、活動日や看護相談の増加によって、活動するための体制の整備が背景にあると考

えられる。

「期待される役割」に関する自己評価では、9項目すべての平均値が3ヶ月後に比べて4年後に増加しており、活動拡大に伴ってCN役割の自己評価が高くなっているといえる。特に、「5. 乳がんの治療に関する最新の知識を持ち、患者の意思決定上の情報提供ができる」において、資格取得3か月後に比べて4年後の自己評価は高く、有意差が見られていた。乳がんの治療では、治療の適応や治療法を示すガイドラインの更新のスピードが速く、医師が提示する治療に関する情報と、患者がインターネットの体験者のブログや書籍から入手する情報が一致せず、患者が戸惑うことがある。また、初期治療においては、化学療法を手術前に行うか手術後に行うか、乳房温存術か乳房切除術か、乳房再建をするかしないか、などの選択肢が多く、患者がこれらの選択肢のメリットとデメリットを吟味するのに必要な情報を十分に理解していないこともある。患者が納得できる意思決定をするためには、CNには患者にわかりやすく情報提供をする役割が求められており、そのための時間や場所や資材の準備が必要となる。従って、4年後での活動日や看護相談の増加により、患者の治療選択に必要な支援を行う機会が増えたために、自己評価が高くなったと考えられる。

2. CN活動拡大への支援ニーズ

本調査の対象者は、乳がん看護分野で初めてのCNであるために、その役割や具体的な活動を自ら開拓する必要がある。3ヶ月後でのCNが必要とした支援は、【CN活動への理解と協力】、【CN活動のための体制と環境の整備】、【CN活動の認知の促進】、【CN活動の評価方法の整備】、【CNの自己研鑽を促進する処遇の配慮】、【CN活動を促進する教育・相談支援】であった。

4年後で活動が拡大したのは、【CN活動の認知の促進】や【CNの活動を促進する助言】などの支援を基盤として、【CN活動への理解と協力】や【CN活動のための体制と環境の整備】などの組織からの支援が得られ、活動の拡大に至っていたと考えられる。神坂ら²⁾は、看護管理者による主な支援として、「活動時間の確保」と「他部門や医師に対してCNの認知を向上させる」ことがCNの積極的な活動を促す要件であると指摘している。本調査においても、CN活動への理解と協力や、体制と環境の整備、認知の促進などの組織的な支援がCNの活動拡大において重要な要素であったといえる。また、【CNの自己研鑽を促進する処遇の配慮】について、職位が、3ヶ月後ではスタッ

フナースが10人(55.5%)であったのに対し、4年後では、副師長相当の職位のCNが8人(61.5%)と半数以上を占めていた。昇格したCNが多いのは、CN資格の取得に対する給与面での処遇が反映されたためと考えられる。しかし、昇格に伴う管理的な責任とCN活動の両立を図るには、組織的な支援が欠かせない。

3ヶ月後でのCNが必要とした支援のうち、【CN活動の評価方法の整備】と【CN活動を促進する教育・相談支援】は、4年後での得られた支援では示されなかった。今後、乳がん看護分野のCNの活動を推進するためには、日本看護協会による全分野のCNへの調査³⁾においては、「活動に対する組織経営層の理解・評価」などが活動推進力になると指摘されていることを踏まえて、乳がん看護に関わる学会・研究会と教育機関が協力して看護部組織や病院組織に対して、更なる乳がん看護分野のCNの役割の認識・評価を促し、活動推進に向けての理解と協力の重要性を発信し続けることが重要である。また、乳がん看護に関わる学会・研究会と教育機関が協力して、CNへの教育セミナー等を通じて教育・相談支援を推進する必要がある。

本調査では、活動拡大に向けてCNが受けた支援を明らかにしたが、CNがどのように組織に働きかけたかは示していない。今後は、CNの活動拡大に向けての組織に対する取り組みを明らかにし、活動拡大に必要な要素を明確にしていくことが課題であると考えられる。

- 1) 富律子：専門看護師・認定看護師制度の現状と課題。看護, 49 (9), 125-129, 1997.
- 2) 神坂登世子, 松下年子, 大浦ゆう子：認定看護師の活動と活用に対する意識。日本看護研究学会雑誌, 33 (4), 73-84, 2010.
- 3) 日本看護協会：2009年認定看護師認定更新者活動状況調査結果。

<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2012/09/cn-koshinsha.pdf>
(2013年10月2日アクセス)